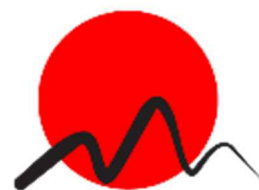


Slovenia Monthly April 2021

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2021年5月11日



～4月の主なポイント～

- 内 政： 中道左派野党4党、ヤンシャ首相に対する弾劾動議を提出
- 外 政： 茂木外務大臣のスロベニア訪問
スロベニア、イタリア、クロアチア3か国外相会合の開催
- 経 済： 小売業「Mercator」社株式の「Fortenova」グループへの移管が完了
- コロナ： 飲食業の屋外営業、宿泊施設等が再開
- 社 会： スーパーコンピューター「Vega」が始動

茂木外務大臣のスロベニア訪問

4月30日、スロベニアを訪問した茂木敏充外務大臣は、同日午前9時48分から50分間、アンジェ・ロガル・スロベニア共和国外務大臣との間で外相会談を行いました。

その後、同日午前11時から40分間、ヤネス・ヤンシャ・スロベニア共和国首相、午前11時42分から30分間、ボルト・パホル・スロベニア共和国大統領を表敬しました。

さらに、同日午後12時26分から90分間、ロガル外相と二度目の外相会談を行いました。
一連の会談の概要は以下のとおりです。



日・スロベニア外相会談



パホル大統領への表敬



ヤンシャ首相への表敬

1 茂木大臣から、基本的価値を共有するパートナーであり、本年後半のEU議長国を務めるスロベニアとの協力を重視している旨述べました。スロベニア側から、茂木大臣の初訪問に歓迎の意を表し、近年の活発な要人往来や先端技術分野を含む日本企業のスロベニアへの投資を評価するとともに、経済関係を始め更なる二国間関係発展への期待を述べました。双方は、今次訪問及び来年の外交関係開設30周年を機に、Society 5.0やサイバーセキュリティに関する協力を含め関係を一層進展させることで一致しました。

2 茂木大臣から、「西バルカン協カイニシアティブ」に基づく西バルカン諸国の欧州統合支援に触れ、同地域に隣接し深い知見を有するスロベニアと協力を強化したい旨述べ、双方は、西バルカン諸国のEU加盟に向け、引き続き協力を進めていくことで一致しました。

3 日EU協力につき、茂木大臣から、「自由で開かれたインド太平洋」の考え方を改めて説明し、先般の「インド太平洋における協力のためのEU戦略」の公表を歓迎するとともに、9月までにEUが作成を目指す「共同コミュニケーション」の策定に向けて次期EU議長国のスロベニアと緊密に連携していきたい旨述べ、スロベニア側の賛同と支持を得ました。さらに、スロベニア側が本年後半のEU議長国として重視している新型コロナ対策、サプライチェーンの強靱化や気候変動といった分野でも、日EU協力を推進していくことで一致しました。

4 中国や北朝鮮等の東アジア情勢についても意見交換を行い、茂木大臣から海警法を含む東シナ海・南シナ海における力による一方的な現状変更の試みの継続・強化に対する深刻な懸念を表明しました。また、双方は基本的価値を共有する同志国が結束して、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化していくことの重要性について一致しました。双方は、北朝鮮の全ての大量破壊兵器及び弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ不可逆的な廃棄に向け、安保理決議の完全な履行を確認するとともに、茂木大臣から、拉致問題の即時解決に向けた理解と協力を求め、支持を得ました。

5 スロベニア側から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催への支持と、その際の要人訪日実現への期待が示されました。

政治

【内政】

●中道左派野党4党、ヤンシャ首相に対する弾劾動議を提出【2日】

2日、マリヤンシャレツリスト(LMS)、社会民主党(SD)、左派(Left)、アレンカ・ブラトウシエク同盟(SAB)の中道左派野党4党は、ヤンシャ首相に対する弾劾動議を国民議会に提出した。これら政党は、弾劾動議提出の理由として、新型コロナウイルス流行に際して政府がワクチンの追加発注を怠った点、メディア及び検察当局への圧力及び干渉等を挙げた。国民議会で弾劾動議が可決されるには、議会定員90名のうち46名以上の議員の賛成票が必要。議会は、動議提出から60日以内に投票を行う必要がある。また、議会が同動議を可決した場合は、案件が憲法裁判所に送られることになる(注:その後、憲法裁判所が案件を精査し、重大な違反があると判断した場合、同裁判所は首相の弾劾を行うことが可能)。なお、スロベニアの歴史上、これまで7度弾劾動議が提出されているが、一度も成功した例はない。ヤンシャ首相は中道左派野党4党による弾劾動議提出を受け、ツイッター上で「(本年2月の)政府不信任動議の失敗に続き、新型コロナウイルス流行期間中に国を不安定化することを試みる哀れな行動である」として、野党側の動きを批判するコメントを発出した。

●年金者党(DeSUS)党内の内紛【9日】

野党年金者党(DeSUS)に所属する議会議員3名が、同党のチョクル党首代行の発言に不満を表明した。事の発端は、チョクル党首代行が、メディアに対し、同党所属の議会議員が本年3月のシモニティ文化大臣に対する不信任動議の投票の際に棄権するなど、党の方針に従っていないこと等を批判し、議員に対して飴が通用しないなら鞭を使っていく必要があると言及したことについて、議員3名が反発した。議員3名は、弁護士を雇い、チョクル党首代行に対して発言の撤回を求めていくほか、法的措置も辞さない構えを見せている。

●大規模の反政府抗議集会の開催【27日】

27日、数千人が集まる大規模な反政府集会がリュブリアナ中心部で開催された。同集会は、プレシェレン広場で開始され、その後、集会参加者は議会前の共和国広場、政府庁舎、大統領府へと場所を移し、それぞれの場所でスピーチを行った。集会参加者は、自由、民主主義、法の支配を呼びかけるとともに、ヤンシャ首相の即刻の辞任及び議会選挙の実施を要求した。集会参加者は、政府が行う集会制限を破って集まり、大部分はマスクを着用していたが、着用していない者も多くいたとのこと。なお、警官隊との衝突などの大規模な衝突は起こらなかった。

●年金者党(DeSUS)党首選、3名が立候補【28日】

6月19日に予定されている年金者党(DeSUS)党首選の立候補期限が締め切られ、リュボ・ヤスニッチ氏、フェリックス・スレチュコ・クロペ氏、ゴラズド・ジュマウツ氏の3名が立候補していることが明らかになった。今後、党が立候補届の有効性につき審査を行い、立候補が確定する。また、副党首の座には7名が立候補しているとのこと。

【外政】

●ボスニアの国境変更に関するノン・ペーパーを巡る混乱【12日、14日、16日】

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)のオンラインメディア「ポリティチュキ」が、ヤンシャ・スロベニア首相が西バルカンの国境変更についてのノン・ペーパーをEUに送ったと報道した。なお、同ノン・ペーパーは、旧ユーゴスラビア地域における民族問題の解決方法として、①コソボとアルバニアの統合、②BHのスルプスカ共和国の大部分のセルビアへの統合、③BHの中でクロアチア人が多数派の州がクロアチアに統合すること、或いはBHの中のクロアチア地域が南チロルをモデルとした特別の地位を付与されること、④結果として、ボシュニャク人は独立して機能できる国家を手に入れること、を提示している。

12日、本件を巡り、ブキナツ駐BH・スロベニア大使がボスニア外務省に召致された。

14日、ロガル・スロベニア外相は、スロベニア国民議会外務委員会において、ヤンシャ首相がEUに送付したとされる西バルカンに関するノン・ペーパーについて、スロベニアの西バルカンに関する戦略は変わっていないと発言した。また、最近のスロベニア・BH関係にかかる出来事は誰の得にもならないとして、駐BH・スロベニア大使がたった1つの記事によってボスニア外務省に召致されたことは外交上の誤りであると述べた。

また、16日、ヤンシャ首相は、ジェフェロビッチBH大統領評議会ボシュニャクメンバーと電話会談を行い、スロベニアが関与するそのようなノン・ペーパーは存在しない旨を説明した。

●EU議長国就任に向けた準備状況【19日】

スロベニア政府内のEU議長国準備事務局のシュタイエル事務局長は、スロベニア通信(STA)に対して、EU議長国就任に向けた現在の準備状況について述べた。同事務局長によると、スロベニアはEU議長国期間中、185のイベントを開催予定で、現状ではその内の19イベントが閣僚級以上の会合となる予定。最も大きなイベントとしては、EU首脳会合や西バルカンに関する首脳会合があり、9月にはブレッド戦略フォーラム(BSF)やEUの外相・防衛相会合も予定して

いるとのこと。なお、多くのイベントについては、感染状況を見極めつつ準備をしているため、現時点ではオンラインとなるか、実際の会合となるかは未定であるが、少なくとも35のイベントについてはすでにオンラインで実施することが決定されている。現場でイベントが実施される場合、ハイレベル会合の開催場所についてはブルドーが予定されているが、事務方レベルのイベントについてはブルドーの他、リュブリャナ、ブレッド、ポルトロージュ、マリボル等での開催が計画されている。

●ラテンアメリカ及びカリブ諸国に関するオンライン会合【19日】

19日、スロベニア外務省とブレッド戦略フォーラム事務局は、オンラインでラテンアメリカ及びカリブ諸国に関する会合を開催した。同会合の冒頭挨拶において、ロガル外相は、スロベニアはEU議長国期間中に同地域とのパートナーシップ強化に努めると述べた。同外相は、スロベニアとラテンアメリカ及びカリブ諸国との関係は伝統的に良好であるが、経済、科学技術分野をはじめ多くの協力促進の余地があると述べた。

●スロベニア、イタリア、クロアチア3か国国外相会合の開催【21日】

21日、ブルドーにおいて、スロベニア、イタリア、クロアチアの3か国国外相会合が開催され、北アドリア海における3か国協力に関する共同宣言が署名された。ロガル外相は、共同宣言署名は、3か国にとって重要となるあらゆる分野での協力強化の基礎を築くものであると述べ、海上交通が盛んで、繊細な生態系を有するアドリア海は3か国の緊密な協力を必要としているが、今後の協力に楽観的であると述べたほか、全ての未解決の問題は、共同宣言策定にあたり解決されたと述べた。ディ・マイオ伊外相は、3か国の協力により、アドリア海は欧州とその他の地域をロジスティクス及びインフラ面で接続する海に発展することができると述べた。また、クロアチアのグルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相は、本年6月にクロアチアで3か国首相間が参加する会合を開催予定である旨述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/ STA)

●ヤンシャ首相、ポーランドを訪問【22日】

22日、ヤンシャ首相はポーランドを訪問し、モラヴィエツキ首相と会談を行った。会談後の記者会見において、ヤンシャ首相は、スロベニアのEU議長国期間中に、脅威に対するEUのレジリエンスを高めていくことに焦点を当てる予定であると述べ、現実的な脅威として新たな感染症の流行やサイバー攻撃等を挙げた。また、同首相は、本年5月に開始される「欧州の将来会議」に触れ、同会議ではオープンな議論を行う必要があり、加盟国が強いほどEUはより強力になると述べ、特定の加盟国を弱体化させる試みはEUの強化につながらないと述べた。一方、モラヴィエツキ首相は、同国の東方から来る脅威や攻撃について言及し、スロベニアがサイバーセキュリティをEU議長国の優先課題に設定していることに謝意を表明した。また、両者は経済分野での協力を中心とした良好な二国間関係についても確認したほか、ヤンシャ首相は、ポーランドは法の支配を尊重する国である旨強調した。モラヴィエツキ首相も、ヤンシャ首相の発言に応じ、スロベニアは時に不当な口撃の対象となるが、嘘や不和が欧州を支配すべきではないと述べた。また、両者はエネルギー問題についても意見交換を行い、ヤンシャ首相はロシアによる「ノルドストリーム2」ガスパイプライン計画に対するポーランドの懸念を共有すると述べ、モラヴィエツキ首相も、同プロジェクトは欧州の安全を低下させるとして、EUの結束を呼びかけた。

●ギリシャ大統領のスロベニア訪問【22日】

パホル大統領は、スロベニアを訪問したギリシャのサケラロプル大統領と会談を行った。会談において、パホル大統領は、EUの更なる協力及び連帯を呼びかけるとともに、新型コロナウイルスからの復興は、持続可能な発展が伴うべきであると述べた。両者は東地中海情勢についても意見交換を行い、パホル大統領は、スロベニアは同地域におけるトルコの違法な行動を批判した旨指摘しつつ、対話及び平和裏な問題解決の重要性を強調した。また、両者は移民問題についても議論を行い、サケラロプル大統領は、同問題におけるギリシャの負担に言及し、他のEU加盟国と負担が共有できることを期待すると述べた。その他、両者は、西バルカン諸国に対するEU加盟プロセスの加速化を呼びかけた。

●ロガル外相、スウェーデン外相と会談【26日】

26日、ロガル外相はOSCE議長国でもあるスウェーデンのリンデ外相とリュブリャナで会談を行った。両者は、スロベニアとスウェーデンは極めて良好な関係にあり、EUや地域・国際フォーラムにおいて建設的な協力を行っている旨評価した。ロガル外相は、スロベニアのEU議長国期間中の優先課題を説明したほか、現在OSCEの議長国を務めるスウェーデンの役割を

歓迎した。その他、両者は、ウクライナ及びベラルーシ情勢、新型コロナウイルス対策、移民問題、人権、EU・ロシア関係、EU・中国関係、東方パートナーシップ、西バルカン等の各種事案に関する意見交換を行った。なお、リンデ外相は、スロベニア滞在中、パホル大統領を表敬した。

●スロベニア、韓国に大使館を開設予定【27日】

スロベニアが韓国に大使館、スペインのラスパルマスに領事館を設置する決定が官報に掲載された。スロベニアは現在ソウル及び大邱に領事を置いているが、今般在韓国大使館が開設となる。また、ラスパルマス領事館については、名誉領事が館長となり、カナリア諸島を管轄する予定。

●ヤンシャ首相のフランス訪問【29日】

29日、ヤンシャ首相はフランスを訪問し、マクロン仏大統領と会談を行った。マクロン大統領は、本年後半のスロベニア、来年前半のフランスのEU議長国期間は、新型コロナウイルス対応及び経済危機の回避といった文脈において、異常事態の中での運営になるとして、両国間の調整が必要不可欠であると述べたほか、EUは保健医療分野での危機に際し、結束していかなければならないと述べた。一方、ヤンシャ首相は、スロベニアのEU議長国期間中の優先事項として、感染症やサイバー攻撃等の脅威に対するEUのレジリエンス強化や西バルカンに対するEU拡大を挙げた。また、同首相は、両国は経済、文化、スポーツ等多岐にわたる分野で協力しており、EU加盟国として多くの事案に対して共通の見解を有していると述べたほか、4月23日に仏警察署で警官が刺殺された事件について触れ、追悼の意を表するとともに、テロ根絶のために共闘していくと述べた。



(Photo: www.gov.si, Cabinet of the Prime Minister)

経済

【経済一般、指標・統計】

●政府、デジタル化に向けた戦略評議会を設置【10日】

スロベニア政府は、首相への諮問機関として、デジタル化戦略評議会を設置した。同評議会の役割は、デジタル化に向けて具体的な措置や法案を提案することで、Uber社のアンドリヤニッチ氏が議長を務める。同評議会は、最初の業務として今後5か月以内に経済、公的セクター等におけるデジタル化促進のために必要となる制度的変更の提案を行う。また、同評議会は、AI、サイバーセキュリティ等の分野においても提案や助言を行う予定。

【企業、産業の動向】

●クルシュコ原発、ドライキャスク貯蔵庫建設開始【3日】

報道によると、クルシュコ原発は、本年3月1日に安全性向上計画の一環として、ドライキャスク貯蔵庫の建設を開始した。これまで高レベルの使用済み核燃料は核燃料冷却プールで保管していたが、同貯蔵庫完成後はドライキャスクへの貯蔵が可能となる。同貯蔵庫の耐用年数は100年の見込みで、使用済み核燃料処理に関する新たな解決策が見つかるまで、同キャスクに保管される。完工は来年を予定している。

●欧州委、Trimo社買収に係る調査を開始【13日】

欧州委員会は、アイルランドの「Kingspan」グループがスロベニアのプレハブ式建築資材製造「Trimo」社を買収する提案に関し、調査を開始した。欧州委員会は、調査の理由として、両者ともに分野における欧州の主要企業であるため、買収により市場の競争力が低下し、価格増につながる懸念があるとしている。

●コペル〜ディヴァチャ間第二鉄道路線建設計画、Strabag社の異議申し立てを却下【20日】

コペル〜ディヴァチャ間第二鉄道路線建設計画のディヴァチャ〜チュルニ・カル区間の競争入札で、スロベニア企業「Kolektor」社を中心としたコンソーシアムが落札したことにオーストリア企業の「Strabag」社が異議申し立てを行っていた件に関し、国家審査委員会は同社の異議申し立てを却下した。これにより、全ての入札審査手続きが完了した。

●小売業「Mercator」社株式の「Fortenova」グループへの移管が完了【23日】

小売業大手「Mercator」社の株式の、クロアチアの「Agrokor」グループから「Fortenova」グループへの移譲が完了した。本年3月、「Mercator」社の株式の18.5%が、「Fortenova」グループに移譲され、4月23日、

残りの69.6%が移譲された。これにより、「Fortenova」グループは、「Mercator」社の株式の88.1%を所有する筆頭株主となった。株式移譲は、「Mercator」社を保有していたクロアチアの「Agrokor」グループが2017年に巨額の負債を抱えていることが明らかになり、クロアチア政府が特別法により同社の管財措置を行った結果、債権者間で合意に達し、2019年4月から「Fortenova」グループとして新たな経営体制に移行したことを受けて行われたもの。



(Photo: Nebojša Tejić/ STA)

●イベリア航空、今夏にリュブリャナ〜マドリッド便を運航【29日】

スペインのイベリア航空は、今夏にリュブリャナ〜マドリッド便を運航することを決定した。同便は8月に週2回の頻度で運航される予定。同便運航決定に関しては、イベリア航空がFacebook、Instagram、Twitter等のSNS上でフォロワーによる投票を開催し、候補となった7都市の中から、リュブリャナが38%の得票で運航先選ばれた。なお、イベリア航空がSNS上でフォロワーに希望調査を行い、運航先を決定するのは初めての試みであったとのこと。

新型コロナウイルス関連情報

●4月30日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

4月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計240,288名で、死者は計4,554名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している30日時点での地域別の累計感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	58,298
ドレンスカ・ベラクライナ地方	18,641
サヴィンスカ地方	32,317
ポドラウスカ地方	35,913
ゴレンスカ地方	25,068
ポムルスカ地方	15,253
オバルノ・クラシュカ地方	10,701
ゴリシュカ地方	11,828
コロシュカ地方	9,283
プリモルスコ・ノトランスカ地方	5,608
ポサウスカ地方	9,406
ザサウスカ地方	6,471
その他調査中	1,501

●政府、中国、ロシア製ワクチン等を国境通過の際のワクチン接種証明書リストに追加【15日、22日】

15日、政府は、スロベニア入国の際に提示すれば入国後の自主隔離が免除されるワクチン接種証明書リストに、ジョンソン＆ジョンソン製ワクチン及びロシア製の「スプートニクV」を追加した。

22日、政府はワクチン接種証明書リストに、中国製及びインド製ワクチンを新たに追加した。これにより、4月22日時点で、スロベニア入国の際に認められるワクチン接種証明書は、ファイザー/ビオンテック、モデルナ、アストラゼネカ、ジョンソン＆ジョンソン、スプートニクV、インド製アストラゼネカ、シノバック、シノファームとなった。



(Photo: Xinhua/ STA)

●飲食業の屋外営業が再開【24日】

24日、国内の飲食店の屋外営業が再開された。また、感染状況が比較的良好とされる3地域（4月24日時点ではオバルノ・クラシュカ、ゴリシュカ、ポムリエの3地域）については、客が新型コロナウイルスに感染していないことが証明されれば、屋内での飲食も可能となった。



(Photo: www.sloveniatimes.com)

●宿泊施設が営業再開【26日】

新規感染数等の減少により、26日より宿泊施設の営業再開が条件付きで認められた。これにより、宿泊施設は、最大30部屋までとの条件で宿泊客を泊めることが認められた。宿泊客は、陰性証明書、ワクチン接種証明書、罹患証明書のいずれかを提示し、新型コロナウイルスに感染していないことを証明すれば宿泊が可能。

社会・文化・スポーツ

●4月は記録的な寒さを記録【7日、30日】

環境庁は、本年4月は過去20年間で最も寒い4月であったと発表した。国内全土の平均気温は1981年～2010年の間の平均気温を1.5℃下回った。最も気温が高かった日は4月1日で、国内各所で気温が25℃近くまで上昇したが、その1週間後の4月7日朝には国内各地で過去70年間の最低気温を記録した。環境庁によると、このような傾向はスロベニアだけでなく、欧州全土で見られたとのこと。

●スロベニアサッカー協会、欧州スーパーリーグ構想に反対の意を表明【19日】

欧州の12のビッグクラブが発表した欧州スーパーリーグ構想に対し、スロベニアサッカー協会(NZS)は反対の意を表明し、欧州サッカー連盟(UEFA)が欧州におけるサッカーのバランスを維持することを支持する旨表明した。NZSのミヤトビッチ会長は、欧州スーパーリーグのようなエリートリーグは、短期的な金銭的利益を生む以外に何も生み出さないと述べ、我々は結束を維持し、最も厳しい形でこのような動きを批判しなければならないと述べた。

●報道の自由指標、スロベニアは4ランクダウン【20日】

国際ジャーナリストによる非政府組織「国境なき記者団(RSF: Reporters Without Borders)」は、2021年の世界報道自由度ランキングを発表した。同ランキングは世界180か国を対象としたもので、これによると、スロベニアは前年より4つ順位を下げ、36位となった。RSFは、スロベニアにおける報道の自由に関する問題は継続しており、2020年3月に民主党(SDS)のヤンチャ党首が首相に就任後、その傾向は更に強まっているとして、国営テレビや通信社の編集面・財政面での独立性を弱体化する組織的措置がヤンチャ政権により行われていると指摘した。なお、本年のランキングの1位はノルウェーで、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、コスタリカの順に続いており、日本は前回より1つランクを下げて67位であった。

●スーパーコンピューター「Vega」が始動【20日】

20日、マリボルにおいて、スーパーコンピューターの「Vega」が稼働を開始した。設置費用は1720万ユーロで、6.9ペタフロップスの計算能力を有している。同スパコンは、欧州高性能コンピューティングプロジェクト(EuroHPC)の一環で欧州内に設置される8基のスパコンのうちのひとつで、最初に設置されたスパコンが「Vega」となった。デジタルを担当するヴェステアー欧州委員は、EuroHPCの一環として最初のスパコ

ンが設置されたことは、各レベルにおける協力の好例であると歓迎のコメントを発表した。



(Photo: www.total-slovenia-news.com)

●リュブリャナ大学新総長にマイディッチ氏を選出【21日】

21日、リュブリャナ大学総長選の決選投票が行われ、獣医学部のグレゴル・マイディッチ教授が、現職のイゴル・パピッチ総長を破り、新総長に選出された。4名の候補者が参加した1次選挙においては、マイディッチ氏が29.7%、パピッチ氏が35.5%を獲得し、決選投票に進んだが、決選投票では54.9%を獲得したマイディッチ氏が、45.1%の得票であったパピッチ氏を破った。リュブリャナ大学総長の任期は4年で、マイディッチ新総長の任期は10月1日から開始される。



(Photo: Tamino Petelinšek/ STA)

オンライン・ジャパン・デー2020の開催

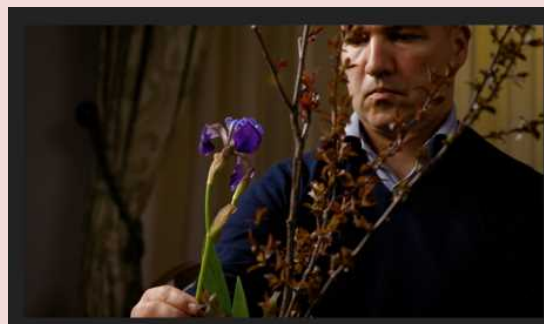
3月27日、当館初のオンラインでの文化イベント「オンライン・ジャパン・デー2020」が開催されました。

毎年6月に実施してきた日本祭「ジャパン・デー」ですが、ジャパン・デー2020として実施するはずだったお祭りは、当地での新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、しばらく延期という形をとっていました。年度末が近づき、これまで通りの野外でのお祭りとして実施することが難しいと判断し、ジャパン・デー2020を急遽オンラインで実施することになりました。



プログラムとしては、松島大使挨拶に始まり、琴のレクチャーと演奏、生け花のデモンストレーション、公邸料理人による和食紹介、そして当地オリンピック委員会委員長及びパラリンピック委員会委員長からのメッセージ、ジャパンビデオリレーにスロベニア語字幕を付した動画を配信致しました。

琴のレクチャーと演奏については、これまで大使館主催行事等で琴の演奏を継続的に実施していただいている小島奈津子氏に協力いただき、琴講師でもある小林真由子氏との合奏動画を配信する事ができました。また、生け花レクチャーについては、池坊スロベニアのガウラン会長にデモンストレーションを行っていただきました。



公邸料理人による和食紹介は、3月ということもあって、節句の紹介をしつつ、ちらし寿司のデモンストレーションを行い、日本のポピュラーなお弁当についても紹介することができました。



動画の撮影は早朝から夜遅くまで行いましたが、プロフェッショナル同士が集まり、非常に興味深い現場となりました。撮影から、動画の編集、字幕作成、字幕付け、音楽の選定など、クオリティの高い1つの動画を作るためにどれだけたくさんの時間と労力が必要か、今回本当によく分かりました。

結果として、YouTube(今回に併せて開設致しました)のプレミア配信とFacebookライブ配信を併せて、スロベニア国内だけでなく日本等からも視聴いただき、延べ5000名以上の方にライブ視聴いただきました。オンラインでの文化事業は初めての実施でしたが、予想以上の多くの方にご参加いただいたことを嬉しく思います。

次のジャパン・デー開催の際には、オンラインではなく、直接日本文化をご紹介できるような状況となっていることを祈りつつ、また皆様とお会いできることを楽しみにしています。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関する国内及び出入国規制等についてまとめたものを公開していますが、そちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページリンク】

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語): <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語): <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省: <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省: <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●令和3年度国際交流基金海外巡回展「妖怪大行進:日本の異形のものたち」開催中!

スロベニア民族博物館にて、国際交流基金の海外巡回展「妖怪大行進:日本の異形のものたち」を開催中です。

開催期間:6月13日(日)まで

会場:スロベニア民族博物館、Meterkova 3, 1000 Ljubljana

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック!

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>